

- 製造工程の省力化、効率化
- 多能工化が進む
- 大口の受注も可能に

家具の部品の生産を効率かつ省力化 コストを抑えて、大口受注も可能に



補助金で導入したNC加工機

会社の概要

昭和9年、木材加工業の碓井木工として創業し、後に木製建具の設計、製造、販売を手掛けるようになった。高度経済成長期には、日本住宅パネル工業協同組合に加入して、全国各地で次々と建設される公営住宅や公務員官舎などに規格化した内装部材・部品の製造、供給も始めた。併せて、建具やドア、障子、ふすまも納入していた。

平成に入ると、公営住宅などの建設が減少し、生活様式の変化から和室を設けない住宅が増え、アルミサッシの普及が進んだことか

ら、建具の需要も大幅に減った。そこで、施設やマンションなどで採用が増えつつあった造作家具の製造に軸足を置くようになり、以降、オーダー家具、システム収納家具の製造やOEMを手掛けるメーカーとして、首都圏のマンション、オフィス、ホテル、公共施設などへ納入実績を重ねている。平成20年に現社名に変更し、東京支店を開設した。

平成17年には初のオリジナル家具「フレックス ファニチャー」、24年には家具・生活用品ブランド「chi」の開発、販売を開始するなど、独自製品開発にも力を入れている。

補助金事業の内容

システム収納家具の製造、販売に本格参入し始めた平成15年頃から、首都圏を中心とするマンション建設ラッシュの中で、ウォークインクローゼットやシューズインクローゼットが標準的に備えられるようになり、家具の収納仕様が向上。フルオーダーよりも安価で、空間を効率的に使い、かつ機能性にも優れたシステム収納家具の普及が進み、需要増加に伴って、当社も堅調に受注を伸ばしてきた。

当社では、パネル状の部材を現場で組み立てるタイプのシステム収納家具を展開する。規格寸法をメインとしながら、客先の要望にも柔軟に応じ、また、価格を抑えながら機能面、品質の向上に努めてきた。一方で、主要納入先が首都圏であることから運送コストを生産の効率化によって吸収するため、製造工程の見直しを図り、平成25年度の補助金を申請して、NC加工機と自動位置決めパネルソーを導入した。

補助金事業の成果

造作家具もシステム収納家具も、現地で組み立てて取り付けるケースがほとんどで、パネルや部品は細部までの高精度な寸法合わせが必要である。NC加工機の導入で、パネル

会社データ



創業 昭和9年
設立 昭和30年
代表 碓井 智晴
所在地 富山市下赤江町1目6-9
TEL/FAX TEL:076-432-6969 FAX:076-442-1752
U R L https://usuiworks.co.jp/
資本金 1,000万円
従業員数 18人
取扱製品 オーダー家具、ドア、建具

への複数の穴あけ加工が高精度かつ効率的にできるようになり、同じ穴あけパネルを均一な品質で大量製造が可能になった。これまでは熟練工が一つひとつ穴あけ加工していた。

自動位置決めパネルソー導入により、数字を入力するだけで正確かつスピーディーに材料が無駄なく切断できるようになった。これまでは寸法を目視で合わせて加工していたため、加工する人が異なると寸法が若干変わってしまう恐れがあるほか、誤差が生じて微調整が必要になったりした。

両設備の導入により生産効率は3割ほど向上した。煩雑な確認事項が少なくなり、材料を1mm単位で誤差なく加工するための作業者の心理的負担も軽減された。作業者のスキルレベルによる精度や作業時間のばらつきもなくなり、より多くの従業員が操作、管理に携わって、1人が複数の工程を担当できるような知識や技術を得られることで、多能工化が

進んだ。それにより、忙しい工程に労働力を移すなど、臨機応変な人材配置が可能となった。

今後の展望

生産効率がアップしたことで200戸を超すマンションなどの大型案件や、複数の案件を同時期に受注できるようになった。高精度の加工が求められるモックアップ（実物大の模型）の依頼も受注できる。

ものづくりの現場は少子化、人口減少の影響もあって、人材確保が困難になっている。将来を見据えて、マンパワーに頼るだけでなく、高性能な設備も積極的に活用しながら少人数でもオリジナリティある製品の開発、生産を目指す。

システム収納を受注した流れで、造作家具や建具の依頼を受けることもある。創業以来培ってきた木材加工の技術とノウハウ、経験を基にして、付加価値の高い商品の供給を続けていく。



補助金で導入した自動位置決めパネルソー



NC加工機で穴開け加工を施したパネル



システム収納家具



造作家具